

第9回 みやまえ活性部会 ～スモールビジネスで地域貢献～ 摘録

日 時：平成 29 年 8 月 4 日（月） 18:00～20:00

場 所：区役所第 1 会議室

出席委員：佐藤部会長、川田委員長、影山副委員長、荒川委員、老門（泰）委員、大木委員、黒沢委員、山田委員、山辺委員

欠席委員：

資 料：次第

資料 1 委員名簿

資料 2 第 6 期宮前区区民会議の進行イメージ

その他 （仮称）みやまえ作家連盟 案 未定稿

■資料確認

1. 議事

- (1) 取り組み提案の検討について
- (2) その他

2. その他の連絡事項

今後の日程等の確認など

■組織の名称、「作家」の定義について

佐藤部会長 農産物を作っている農家や形のないサービスの提供者も含めていきたい。「作家」や「物作り」などの言葉では表しきれない面がある。

山部委員 「作家」というと、文筆家のイメージも強い。

田辺委員 まず対象者の範囲を明確に決める必要がある。フィナンシャルプランナーやベビーシッター養成なども含めるのか

佐藤部会長 私の場合でも例えば「似顔絵かきを教える」というサービスの提供のしかたもある。その辺りも含めるイメージだ。

事務局 「みやまえ作家連盟」は良い意味で印象に残る。説明をつけてはどうか。ジャンルについては、都度足していくような形でも良いのではないか。

老門委員 「作家とは…」と注釈をつける。フォーラムにはいろいろなジャンルの方に来ていただいたので、今更をそれを絞り込むことは難しい。

田辺委員 まだ決めなくても良い。それ以外の事の方が重要だ。

コンサル とりあえずは仮称にしておき、「作家」について例示を少し加筆しておくという対応でどうでしょうか。

(一同同意)

■運営のイメージについて

老門委員 運営の仕方が課題だ。例えば、まちづくり協議会の傘下に入るなど何か運営方法の担保がないと難しいのではないか。

佐藤部会長 運営が負担になるのであれば、入りたくない。今の仕事で手いっぱい。私自身もそうだ。できるだけゆるやかに、負担感はないが繋がっている事が、一人の作り手としては理想だ。

事務局 組織がゆるやかだと活動もゆるやかになってしまわないか。現状案は事務局の負担が結構あるが、ある程度の取り決めは必要ではないか。

佐藤部会長 年に数回集まる程度であれば、参加したい方はいるのではないか。みんな交流したいと思っている。そこから自発的に次の活動が生まれてくれば良い。最初から活動内容や会合回数を決めると、負担になってしまう。

田辺委員 世間に知らせる、参加者にコンセプトを伝える意味でもアイデンティティ、枠組みは必要であり、自分たちが主催するイベントを何かもっているのが理想だ。それには事務局や会費などもある程度必要だ。既存のイベントでは、参加者・団体が多くても、運営に関わってくる方が少なく、苦労

している例がある。覚悟はある程度必要だ。

川田委員長 ゆ〜ずパーティの例では、ゆ〜ず連絡会の所属にしたが、若い人達が自ら積極的に動いてどんどんまわっていった。核となる人については自然に生まれていく。運営をしながら、参加者自身が考えなければならない。

佐藤部会長 例えばまち協に所属するなど、選択肢や情報はいくつか区民会議の意見として提供できると良い。あまり固め過ぎずに投げしていきたい。

田辺委員 もう一步ふみこまないと、提案にならないのではないか。

■ 営利／非営利

田辺委員 この活動は物を売るのだから、無償ではない。営利活動であれば、まちづくり協議会には入れない。

事務局 「活動を通じた地域貢献」を最終的な目標として、設定していた。

佐藤部会長 参加資格として、特定の政治・宗教・暴力団体営利団体除外の他、営利団体も含める案もあった。

川田委員長 営利団体は含めなくて良いのではないか。

田辺委員 政治・宗教・暴力団体は除外対象として入れておくのが通常だ。「お仕事探し」という言葉が目的の中でも使われているので、営利活動が入ってくるだろう。

荒川委員 NPO 団体も「非営利」だが、職員への給与は払っている形。

田辺委員 今回目指しているものはNPOよりも、営利色が強いのではないか。

■ 活動内容の提示の仕方など

事務局 みやまえ作家連盟（仮称）をつくることでどのような良いことがあるのか、夢のある構想を提示し、賛同いただける方達とスタートさせる。話だけでは、どうしても想像による部分が出てきてしまう。

コンサル どうやったら活動が魅力的になるかを考える必要がある。

活動内容に「共同学習の場」と新しく入れたが、会員同士で知りたい事を一緒に学ぶために講師を読んだり、視察に行く活動などをイメージした。

ゆ〜ずパーティの事例では、町会とつながったことで、テントや公園を借りやすくなるなど、新たな情報が得られた。作家だけでなく、町会なども所属し、情報や支援を提供する形もあるのではないか。

なんとなくこうなれば良いというイメージだけでなく、事例提示も鍵になる。

前回までにメガロスさん（スポーツクラブ）でのモデル取り組みについて、地域の事業者ではないと事で否定的なご意見があったが、逆にこれまで地域のイベントにアンテナをまったく張っていない層の目にとまるきっかけが得られるのではないか。

老門委員 福祉フェスティバルへの参加も案として出ている。私が実行委員長を務め、9月末まで出店受付をしているが、時間的な問題や、福祉にどうつながるかなどの視点から、営利色の強い企画については否定的な見方をする実行委員が多かった。

山辺委員 協力してくれそうな団体の情報収集は誰が行うのか。

田辺委員 事務局機能はある程度必須。組織がないと動かない。

事務局 マルシェとの違いは特定の地域と結びつかない点ではないか。個々では地域でもつながっているが、全体でもゆるやかにつながっていて、ネット上などの仮想空間だけでなく、年数回は実際に顔を合わせるイメージ。

田辺委員 恒常的に物を売る場として「仮想商店街」という案も少し出ている。

佐藤部会長 個人的にはそれも有りだと思っている。

荒川委員 以前、「ふれあいフェス」というイベントがあり、何年か続いていたが突然無くなった。復活させてはどうか。

■参加資格

田辺委員 参加資格が重要だが、難しい。誰でも何でもOKにしてしまうと、質が悪い物も入ってしまう。そうなると全体のイメージ、ブランド化が難しくなる。他の青空市などとの差別化も難しくなり、客の立場から見ても何を売っているのか見えにくくなってしまわないか。

川田委員長 作品づくりが好きな主婦などを地域につなげてあげようというのが最初の主旨だった。そういう人たちの居場所を地域でつくる。

影山委員 子育てや介護などに追われ、家の中でもんもんとしている人、そういった人の中に技術や知識を持っている人がいるのではないか。そういった方に技術や知識を与えることで、地域との関わりを生む。既存のイベントに参加している方々よりもこちらが主ターゲットだ。まずは想定されるターゲット層にアンケートをかけてはどうか。

フォーラムをきっかけに、ゆ〜ずパーティの事例が出てきた。物以外のサービスをどう考えるか。そこを含めない考え方もあるのではないか。

川田委員長 なんでも OK にするとまとまりがなかなかつかない面もある。

田辺委員 現在は物をつくらないビジネスの方が多いい世の中だ。

佐藤部会長 「お友達」という言葉が、イメージを一気にやわらかく、ハードルを下げている気がしている。もう少し目的意識、意志のあるイメージ、何かやりたいことがある人がつながるイメージを出したい。

コンサル 「お友達さがし」というより「お仲間さがし」でしょうか。

事務局 ビジネスコミュニティのイメージでしょうか。誰が参加するかが、どんな活動をするかに大きく関わってくる。いろいろな方が参加している方が魅力的なのか、ある程度共通目的を持った方が集まる方が良いのか。

佐藤部会長 個人的には、様々な活動、タイプの方が集まる方がおもしろそうだと感じています。異ジャンルの人とかかわることで、新たなインスピレーションを得られるかもしれません。

川田委員 ゆ〜ずパーティにもベビーシッターの方が参加していた。参加することで何かが生まれてくることもある。

佐藤部会長 例えば私が子育て関係の方とかかわることで、赤ちゃんの似顔絵の需要やイベント参加が見いだせるかもしれません。

事務局 異業種交流なのか、コアな集まりなのかで随分違ってきそうだ。

■ イベントではなく、地域交流、地域貢献

川田委員長 イベントなどの目的がまずあり、集まった人たちに役割をはめていく進め方もある。ゆ〜ずパーティでは、最初に声をかけてきた 3 人がクラフト関係の方だったが、最終的には地域の演奏家などとも参加して面白かった。参加する人も多様な楽しみ方ができるようになった。

山辺委員 参加していて楽しいことが大事だ。

大木委員 ゆ〜ずパーティは参加者（来場者）も楽しんでいた。いろいろなものが取り入れられていた。はぐるま工房は稗原のお祭りや盆踊りにも出てきてもらって、一緒にピザを焼くなどの企画もしている。

田辺委員 まちづくり協議会では、年に一度「ラブみやまえ」というイベントがあり、その中で「みやまえ楽市」と言って、様々な団体がステージ発表や展示発表をしている。販売は一部農産物などを例外的にやっているだけだが。

川田委員長 原則販売はダメということになっている。原価還元なら目をつぶるという話になっていると聞いた。

田辺委員 区民祭やさくら祭り（宮崎台）では、参加費（出店料）をいただく形で、販売もしている。

コンサル 既存のマルシェ等との差別化については、地域とのつながりをもっと打ち出す。例えば、地域の町内会や福祉施設、お寺などにアンケートして、クラフト教室のニーズやイベントへの参加の可能性などアンケートで伺って、作家さんとコーディネートしてはどうか。

川田委員長 「クラフト市」をイメージできない方も多い。まずはやっているところを見ていただくのが一番わかりやすい。向ヶ丘地区の町内会連合会で、出張所でクラフト市を2月頃を目標に開催しようという動きがある。町内会の方々に知ってもらって次につながればと考えている。

事務局 クラフト市は一つのアウトプットの形の例だが、作家がつながることによる相乗効果。地域貢献などが一緒にやれたらということが重要だ。イベント開催が目的ではない。

山田委員 既存のマルシェ等との差別化がやはりポイントだ。仲間の絆を通して地元地域を盛りあげる。まだ参加していない人、つながりのない人をどうネットワーク化していくか。仲間づくりの実例やヒント、スキルをまとめたガイドブックのようなものができると良いのではないか。

川田委員長・田辺委員 冊子型、提案書のようなイメージか。

■役所との関係など

山田委員 役所の中にも事務局、相談窓口などの機能が何か必要なイメージを持っている。

佐藤部会長 個別の相談に行政が乗ることは可能なのか？

事務局 企画課より地域振興課などが対応した方が良い事例も考えられるが相談に乗ることは基本的に可能だ。内容によっては側面サポートもできるだろう。ただし事務局機能を担うことは難しく、また予算もつかない。

佐藤部会長 連盟がスタートした後に、行政にも相談できるような形があると良い。

田辺委員 区内には行政にまったく頼らずに自主的に活動している市民活動団体も多く存在する。

荒川委員 行政が事務局をしたイベントの例が過去にはあった。（循環イベント？）

■今後の進め方など

佐藤部会長 まず「地域でお友達・お仕事さがし」の第3回を開催し、集まった方たちに、考え方を提示し、意見を伺いながら作っていきたい。

田辺委員 地域にとってのメリット、参加いただく作家さんたちにとってのメリットを突き詰めていく必要がある。

コンサル 例えば地域の子育て団体・広場と、マルシェ系の方々がまだつながっていないのではないかと。例えば佐藤さんが子育て広場をやっているところに行き、片隅で似顔絵を描いたり、クラフト教室を開けるかもしれない。

老門委員 区内の子育て広場にはすすく土橋、すすくけやき平などがあり、定期的に開催されている。

コンサル 土橋カフェで参加者が楽しめる企画として、音楽家の方のパフォーマンスなどをした例もある。こうした事例を増やせばよいのではないかと。

川田委員長 例えば犬蔵カフェに作家さんが参加する。

コンサル 地域の老人会、食事会などでもパフォーマンスやクラフト教室ができる可能性があるのではないかと。

佐藤部会長 それがメインで派遣会社のようになってしまうと、少しイメージが違う。活動の一部としてあるのは良いと思う。

コンサル 第3回について、特に来てほしい方、核になっていただけそうな方を何人かあげ、その方のご都合も踏まえて日程を決めてはどうか。

- ・ 参加してほしい方としてサンフェスタ小川さん、佐々木さん、辻さんなどの名前があがる
- ・ 8月21日に非公式の部会を開催し、協議を進める。
- ・ 第3回「地域でお友達・お仕事さがし」の日程は、参加者に合わせて設定し、平日の日中でも良い。10月4日から6日が候補日。
- ・ ニーズや意向を把握するためのアンケートも実施したい。8月21日に検討し、内容を固める。

(以上)